

2018 年 9 月 27 日
一般財団法人 日本不動産研究所

東京 23 区のマンション価格と賃料の中期予測(2018~2020 年、2025 年) / 2018 下期

日本不動産研究所は、住宅マーケットインデックス*を活用して、東京 23 区のマンション価格と賃料の中期予測を公表いたします。

調査結果の概要

住宅マーケットインデックス*のデータを元にマクロ計量モデルを構築し、東京23区のマンション価格及び賃料について2025年までの中期予測を行った。

- ・新築マンション価格は、2018年まで上昇、以降ほぼ横ばいで推移し、2020年には2019年10月消費増税の影響でやや下落、以降2025年までは微減する。
- ・新築マンション賃料は、2020年まで上昇し、以降ほぼ横ばいで推移する。

1. 予測結果

東京 23 区の新築・標準タイプ(専有面積 40~80 m²未満)のマンション価格及び賃料の予測結果は以下のようなになる。

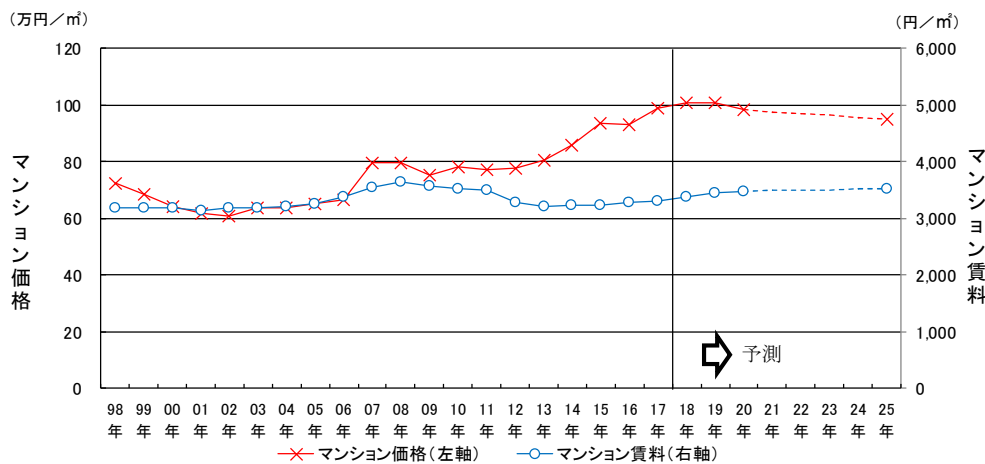
● マンション価格：

- ・2018 年は、マクロ経済の安定が継続して上昇 (+2.1%) で推移する。
- ・2019 年は、10 月に実施が予定されている消費増税の影響を受けて、マンション価格は微減 (-0.1%) する。
- ・2020 年は、前年 10 月消費増税の影響が本格化し下落 (-2.3%) する。2021 年以降は微減する。

● マンション賃料：

- ・2018 年は+2.0%、2019 年は+1.9%、2020 年は+1.2%と、雇用者報酬や消費者物価等の動向を背景に上昇する。
- ・2021 年以降はマクロ経済が安定的に推移することによりほぼ横ばいで推移する。

(図表) 東京 23 区の標準タイプの新築マンション価格及び賃料の予測結果



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2025年
マンション価格	79.8	75.5	78.5	77.3	77.6	81.0	85.9	93.5	93.4	98.9	101.0	100.9	98.5	95.0
変動率	0.3%	-5.5%	4.0%	-1.5%	0.4%	4.3%	6.1%	8.9%	-0.1%	5.9%	2.1%	-0.1%	-2.3%	
マンション賃料	3,648	3,568	3,528	3,496	3,280	3,224	3,234	3,247	3,287	3,320	3,386	3,450	3,492	3,530
変動率	2.8%	-2.2%	-1.1%	-0.9%	-6.2%	-1.7%	0.3%	0.4%	1.2%	1.0%	2.0%	1.9%	1.2%	

※2017年までは住宅マーケットインデックスから作成、2018年以降は日本不動産研究所の予測値。



2. 予測手法について

1998 年から住宅マーケットインデックスとして東京 23 区のマンション価格及び賃料などについて集計・公表してきた。ここでは新築・標準タイプ(専有面積 40~80 m²未満)のデータを元に、マクロ経済指標や東京 23 区の人口などを使ってマクロ計量モデルを構築し、2025 年までの中期予測を行った。

具体的な手順は以下のとおりで、平均像の動向に着目した予測となっている。

① マンション価格及び賃料の年次データの作成 (住宅マーケットインデックスを活用)

住宅マーケットインデックスでは半期のデータを公表しており、ここでは 2017 年までのデータを対象に、該当事例数を使って半期データを年次データに変換する。

② マンション価格・賃料の変動モデルの構築 (マクロ計量モデルの構築)

実質 GDP や民間住宅投資、雇用者報酬などのマクロ経済指標、東京 23 区の人口、地価などを用いて、東京 23 区のマンション価格及び賃料を求めるマクロ計量モデルを構築する。

③ マンション価格及び賃料の予測

②のモデルに、マクロ経済指標の将来見通しとして日本経済研究センターの「第 44 回中期経済予測」(2018 年 3 月 23 日公表)と「第 175 回短期経済予測」(2018 年 8 月 22 日公表)、東京 23 区の将来人口については国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」(2018 年 3 月 30 日公表)を用いて、マンション価格及び賃料の中期予測を行った。なお、消費税は、2019 年 10 月に増税されることが予測の前提となっている。

- ・マクロ経済指標の予測値は、2018~2019 年の経済成長率が年 1.1%前後、2020 年に 0.3%に成長幅が縮小する。2021 年以降は年 0.6%前後となる。なお、雇用者報酬は 2018 年に 3.0%、2019 年に 2.2%上昇し、2020 年以降は年 0.6%前後の上昇が続くと予測された。10 年国債利回りは 2018 年以降上昇が続くと予測された。
- ・東京都の人口予測値は、2020 年に 23 区の人口が 2015 年比で 3%台に増加し、それ以降は、増加幅は低下するものの、増加傾向と予測された。

* 住宅マーケットインデックスは、東京 23 区の賃貸及び分譲マンションの賃料・価格・平均利回りについて、新築・中古(築 10 年)別、大型・標準・小型の各タイプ別に東京 23 区、都心 5 区及び城西・城南・城北・城東別、各區別に調査・集計。事例データはアットホーム(株)と(株)ケン・コーポレーションの提供により、日本不動産研究所が分析。1998 年上期~2001 年上期までのインデックスを 2001 年 11 月に公表したのが第 1 回目で、最新の「住宅マーケットインデックス 2018 年上期」は 9 月 13 日に公表し、過去 5 年分の結果をまとめたデータファイルをアットホーム(TEL:0570-01-1967 ナビダイヤル)が作成・販売。

問合せ先：一般財団法人日本不動産研究所 研究部：金東煥・富繁勝己・佐野洋輔

電話：03-3503-5335 FAX：03-3597-8063 <http://www.reinet.or.jp/>

- 本資料の記載内容(図表、文章を含む一切の情報)の著作権を含む一切の権利は一般財団法人日本不動産研究所に属します。また記載内容の全部又は一部について、許可なく使用、転載、複製、再配布、再出版等を行うことはできません。
- 本資料は作成時点で、日本不動産研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負うものではなく、今後の見通し、予測等は将来を保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なく変更される場合があり、本資料の内容に起因するいかなる損害や損失についても当研究所は責任を負いません。